

遺伝子組換え等先端技術安全性確保対策

【596（596）百万円】

事業のポイント

遺伝子組換え生物多様性影響評価に必要な科学的知見の集積、国内における遺伝子組換え作物の商業利用に向けた技術開発等を行うとともに、遺伝子組換え作物等に関する試験研究の内容等の検討に資するため国民調査を行います。

（開発に取り組む技術の例）

- ・ 新たに流通が見込まれる組換え遺伝子の検出技術
- ・ 葉緑体への遺伝子導入等による組換え遺伝子の拡散防止技術
- ・ 隔離距離の設定や開花期の調整等による交雑抑制技術

政策目標

- 2010年までに、遺伝子組換え作物の高精度・迅速な検知技術を開発する。
- 2010年までに、新たに実用化が見込まれる遺伝子組換え作物の環境への影響を評価する手法を開発する。

<内容>

1. 遺伝子組換え生物の産業利用における安全性確保総合研究

生物多様性影響評価に必要な新たな遺伝子組換え生物に関する科学的知見の集積、検出技術や遺伝子拡散防止技術など遺伝子組換え作物の安全・信頼の確保のための管理技術の開発、交雑リスクを低減させる栽培技術など一般作物との共存のための技術開発等を行います。

2. 遺伝子組換え作物等に関する意識調査事業

遺伝子組換え作物等に関する試験研究の内容等の検討に資するため、生産者、消費者、流通業者、研究者等を対象に遺伝子組換え作物等に関する意識について調査・分析を行います。

[担当課：農林水産技術会議事務局 技術安全課 03-3501-3780(直)]